

新しい種なしスイカ

本方法は、不活化した花粉を雌花に授粉し、稔実種子をほとんどなくしたスイカ果実を作る方法です。大玉も小玉もその品種の品質を維持したまま種なしスイカ(種皮だけのシイナは残ります)に変える画期的な技術です。今までのスイカの品種を変えることなく種なし化でき食味・甘味が向上する傾向があります。



「種なし花粉」



黒種の無いスイカへ!!



通常栽培と種なし化の種子比較

保冷に関する注意事項

- 「種なし花粉」は、要冷凍です。使用直前まで冷凍庫で保管してください。
- 畑へ持っていくときは、必要な袋数のみ保冷剤(200gを3個以上)と共にクーラーボックスへ入れ、冷凍状態を維持してください。
- クーラーボックスはハウスの外の涼しいところに置き、アルミパックはハウス内で1袋ずつ開封して使用してください。露地では花粉が飛ばされないよう注意してください。
- 「種なし花粉」は、開封すると直ぐに使用できます。解凍は必要ありません。
- 「種なし花粉」を開封もしくは未開封で常温にさらすと、その時点から花粉の劣化が始まりますので、開封後は速やかに授粉して2時間以内に使い切るようにしてください。
- 「種なし花粉」は、使いきりです。開封後は残っても再冷凍しないでください。再冷凍した花粉は、劣化しておりますので着果不良や変形果の原因になります。
- 保冷剤が柔らかくなり始めたら、保冷機能が失われつつあります。未使用の花粉は直ちに冷凍庫へ戻してください。
- クーラーボックスから「種なし花粉」を取り出し、薬包紙を開き瓶等に花粉を移し、筆で授粉してください。
筆は、「ぺんてる Pentel XZBS1-0 画筆 ウマゲマル0号」を推奨。

1雌花あたりの授粉量について

1雌花あたりの授粉量の目安は、約0.5mgです。
30mgパックで約60回の授粉が目安です。

商品名	容量	授粉目安回数
種なし花粉15	15mg	約30回
種なし花粉30	30mg	約60回



着果させたい雌花に確実に授粉

栽培についての注意事項

- 低温、曇天が続く環境下では、着果不良あるいは変形果の原因になります。最低気温15℃以上、晴天時の授粉をお勧めします。
- 授粉は、雌花が開花する早朝から行ってください。
- 筆が水や蜜で濡れた場合は、筆を交換してください。
- 虫(特にミツバチ)がいると、普通の花粉が受粉され黒種になりますので、虫のいない環境での授粉を行ってください。虫による虫媒が心配な場合は、雌花のクリップ止を推奨いたします。
- 「種なし花粉」は、普通の花粉よりも花粉管の伸長が遅いので、初期肥大が遅めですが、授粉から約10日で通常の大きさに追いつきます。
- 早熟傾向にありますので、通常より2～3日早めの査定をしてください。
- 「種なし花粉」を授粉した株には、予備玉でも普通の花粉は絶対に授粉させないでください。普通の花粉を授粉した雌花の方が生長が速くなり、「種なし花粉」を授粉した雌花は着果不良を起こします。



ミツバチの虫媒には特に注意して下さい



虫が心配な場合はクリップ止を推奨します